

平成 29 年度 気ままにセミナー 「夢スケッチ～君だけの夢を描こう～」

KFAW は 2016 年度から八幡西生涯学習総合センターと共同で、高校生のためのキャリア形成セミナーを開催しています。今年度は、北九州市立大学と北九州市立ユースステーションの協力をいただき、大学生が高校生と一緒に夢について考える時間を持ちました。

日時 2017 年 7 月 8 日 (土)・8 月 19 日 (土) 16:00～18:15 (全 2 回)
場所 北九州市立ユースステーション
企画運営 北九州市立大学地域創生学群眞鍋ゼミ学生
参加者 高校生 (公募) 55 名

プログラム

【1 回目 (7 月 8 日 (土))】

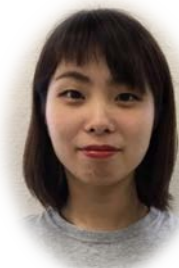
- ・色んなゲームで仲間づくりをしよう
- ・自己分析シートで、自分について知ろう
- ・自分の“夢プラン”を作成しよう

【2 回目 (8 月 19 日 (土))】

- ・アイデアツリーづくり
- ・自分の夢について話そう
- ・ロールモデルの講師の話の聞こう

「夢スケッチを企画・運営して」

北九州市立大学 地域創生学群 3 年生 尾崎 奈緒子



皆さんは高校生の時、どのような夢をもっていましたか？パティシエ、美容師、消防士、警察官、看護師…さまざまな職業に憧れを抱き、たくさんの夢をもっていたと思います。

それでは、今の高校生にどんな職業が人気なのかご存知ですか？答えは公務員です。その理由は安定しているから。全員が公務員になりたいというわけではありませんが、憧れではなく、安定志向の高校生が多くなっているのです。そこで、いまの高校生は将来に夢や希望を持っていないのではないかと考えた私たちは、「夢について考えるきっかけをつくる」ために、高校生を対象としたワークショップを行いました。

参加してくれた高校生は素敵な夢を持った人や、夢がまだ見つかっていない人、夢はあるけど人に話すのが恥ずかしいと思っている人など、さまざまな人がいました。私も高校生の時に夢が見つからず、大学に入ってから探してみようと考えて大学に入ったので、高校生には今のうちからやりたいことを見つけてもらいたいなと思いました。

今回のワークショップは 2 日間行い、1 日目はそれぞれの未来を想像してもらいました。27 歳で素敵な人と結婚したい！60 歳で世界旅行をしたい！など、やってみたいことをたくさん書いてもらいました。2 日目はゲスト講師をお呼びして、今の職業についてのお話や、目指そうと思ったきっかけ、今現在での夢などをロールモデルとして、そして人生の先輩としてたくさん話していただきました。その話が心に響いたのか、プログラム終了後には高校生が自ら講師のもとに行き、アドバイスをいただいている様子もうかがえました。

今回のワークショップを開催するにあたって、どうすれば高校生が夢について考えてくれるだろうか、私たちに心を開いて夢を語ってくれるだろうか、とたくさん悩みましたが、高校生に一番近い存在である私たちが一緒に夢について考えることで、少しでも参加してくれた高校生の人生の手助けとなれたのならうれしいです。ありがとうございました。

◆ゲストスピーカートークセッション

㈱タカギ 人事課兼研究所準備室 原 大道さん



高校生時代はこれといった目標もなく、勉強、部活、バンド活動、バイトなど自分が面白いと思うことばかりしていました。3年生のとき、たまたま一冊の本、スーザン・ジョージの「なぜ世界の半分が飢えるのか」に出会い、人生の目標として人を飢えから解放するような仕事がしたいと思いました。3年生の夏から農学部進学に向けて動き出し、第一志望の大学に入ったものの「自分一人ですることは本当に小さい、自分がかんばらなくてもいい」と思い無気力でした。大学3年生のとき、先輩と先生に言われた言葉があります。「一人の力は小さいが、小さいことの積み重ねが今の社会を作っているし、一人の力がなければ何も生まれない。」初めて人生を舐めていたことに気づき、そこから死に物狂いで勉強して、環境工学という新たな分野で、別の大学の大学院に進みました。目標を持って取り組む、夢を持って取り組むことって本当に大事なことだと痛感しました。世界から飢えをなくすことが私の夢です。そのためにはいろいろなアプローチがありますが、自分がやりたかったのは「水」です。平均寿命の短い国に共通しているのは水が汚いことです。水を改善していくことが自分の夢のゴールです。

㈱アジュレール 代表取締役 杉原 美保さん



父親が厳しい人で、虐待児で育ちました。学校以外に外に出してもらえず、友だちもおらず、唯一安心できる存在が学校の先生でした。

子どもができて、離婚も経験しました。子育てに疲れて、ある日アロマサロンへ行きました。マッサージを受けながら聞いたセラピストの一言「杉原さんもこんな仕事が似合うと思いますよ。」これが気付くきっかけになりました。勉強も嫌いじゃない、癒される空間、小児喘息でずっと病院通いをしていたので、健康に対しての意識が高かったのです。どうせなら癒しのアロマではなく、医療のアロマを学んでみようと決意しました。夢を持つタイミングは人それぞれだと思います。焦って自分らしくないものをつかむよりは今、好きだなと思えることに向き合って、そこから掘り下げていくのです。

私の夢の一つは、義務教育のカリキュラムに健康を守る知恵、病気にならない知恵を入れること。もう一つは、若い世代に夢を与えられるような話をしていくことです。一回きりの人生、夢を持って挑戦をしてほしいです。それには未来年表がおすすめです。自分になりたいものがあり、そのためにスキルが必要なら学び、お金の計画を立てて、ここならいけるというタイミングを書き込みます。期限は必ず決めます。やりたいという強い思いと計画性があつたら絶対になれるます。